

2025年度

科目名称	時事問題解説
授業コード	A0225
英語名称	Commentary on Current Topics
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	中村 幸司
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	本科目では、日常伝えられている時事問題の中から科学に関係のあるものを抽出し、各回のテーマとする。その問題の科学を理解するだけでなく、社会的側面と問題点・課題をあわせて考えることで、今の科学がどのような社会の土俵の上にあるのかを俯瞰する。授業を通じて、時事問題の本質を理解する手法、思考の展開の仕方を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	2025年3月まで37年間、NHKの報道現場で取材・解説をしてきた。特に最後の12年間は解説委員として医療・科学・交通・災害など（省庁の管轄にあてはめると、厚生労働省と国土交通省などにあたる）に関する解説をしてきた。当事者に対する取材、視聴者への解説の経験を生かし、科学と社会の関係性を具体的な事象を現場感のある形で提示する。
到達目標	科学の進歩、いまやこれを手放しで喜ぶとは必ずしもできない。現代社会では、科学が社会的側面（問題点や課題など）を持つと同時に、社会も科学的側面（科学的知見の正確な把握など）がカギとなっているケースが多い。科学と社会は、もはや「シームレス」と言っている。その環境下で科学を学ぶ者にとっては、科学と社会がどういった関係にあるのか、常に考えることが重要であり、必須となっている。 授業を通し、「多様な見方を理解し、広く深い学識に基づいた批判的思考力と表現力、科学的態度を有し」、「生命と人間性を尊重する倫理的判断力、未来を見据え正しく技術を用いる能力を備えること」。そして、「共感する感性を備え、心身ともに健全な人格を有し」、「自然との共生の意義と自らの社会的使命を認識し、人類社会への貢献に努める」ことの重要性を理解し、身につけることを目指す。 具体的な時事問題を通して、「社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現する」力を養う。
計画・内容	第1回 授業の概要・・・自己紹介と授業の進め方の説明、総論。 第2回 道路陥没とインフラの老朽化・・・2025年1月に埼玉県で起きた道路陥没の原因を科学に迫り、下水道管、トンネル、橋などのインフラの老朽化問題ととるべき対策を考える。 第3回 花粉症と対策・・・「国民病」とも呼ばれる花粉症は、健康被害だけでなく社会的損失も大きい。医学的対策と社会的対策をみる。 第4回 福知山線脱線事故から20年・・・多くの死傷者を出した事故から4月で20年。原因とともに、その後教訓がどう生かされたか。 第5回 交通渋滞の科学・・・交通渋滞は、現象を科学で考えることができる。社会的現象と科学の関係をみて、対策を科学で考える。 第6回 生殖医療と生命倫理 その1・・・新型出生前検査（NIPT）を中心に、ヒトの誕生と生命倫理、生殖医療の今を考える。 第7回 生殖医療と生命倫理 その2・・・着床前診断（PGT-Mなど）や代理出産など、生殖医療の全体像から課題を考える。 第8回 超高層ビルと長周期地震動・・・東日本大震災では、新宿の高層ビル群が大きく揺れた。原因とされる長周期地震動と対策と技術者の取り組み姿勢をみる。 第9回 臓器移植システム見直しと課題・・・臓器移植に関して、国は移植医療システムの大幅な見直しを決定した。日本の移植医療の現状とヒトの死を考える。 第10回 高額医療費制度と最新医療・・・高額医療費制度の引き上げについて、国会で議論が続いている。がん患者などが国会に見直しなどを強く呼びかけている。背景には最新医療による非常に高額な治療

2025年度

計画・内容	法がある。 第11回 熱中症とその対策・・・「災害」ともいわれる近年の熱中症への対策の現状。 第12回 羽田空港の航空機衝突事故とフェールセーフ・・・2024年1月の事故とその後の対策からフェールセーフを考える。 第13回 40年前の日航機事故の教訓・・・最悪の犠牲者を出した日本航空機の墜落事故から8月で40年になる。時代の最先端技術が結集している航空機と、その安全を考える。 第14回 全体総括 第15回 まとめ なお、授業進行状況などによって、内容の差し替えや入れ替えなどの変更をすることがある。変更する場合は授業で提示する。
授業の進め方	授業は、教室での講義形式により行う。パワーポイントが中心で、適宜、映像や黒板を使用する。 毎回、テーマに関する課題を提示し、期日までのレポート提出を求める。 各回の授業の初めは、前回テーマについて、学生のレポートをもとに議論する。
能動的な学びの実施	各テーマの問題点の所在や課題、解決策などを授業中に考えてもらうことになる。（アクティブラーニングも行う） 授業中に、学生の意見を聞き、その意見に対する意見も聞くこともある。90分間、常にテーマについて問題意識をもって臨んでもらうことになる。
授業時間外の学修	各回の授業テーマの概要について、予習すること、およびレポートの提出とレポート作成に伴い復習が必須となる。（計45時間）
教科書・参考書	特になし（参考資料があれば、授業にて適宜紹介する）
成績評価方法と基準	各回の授業後に提出してもらうレポートと最終試験によって評価を行う。 最終試験は論述形式が中心になる。 評価の配分は、レポート50%、最終試験50%。 なお、授業の中でテーマについて積極的な発言は、大いに評価の考慮に入る。
課題等に対するフィードバック	各回のレポートに関して、次回以降の授業で一部紹介し、追加の議論を行う。学生から示された疑問点の説明も行い、理解の促進を図る。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	授業のテーマは、よりタイムリーな時事問題に差し替えることがある。（授業進行状況などによって、内容の入れ替えなどの変更をすることもある。）
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業になった場合 授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 zoomのURLや授業資料などはCampusSquareに掲示し、配信します。 成績評価方法と基準 zoom参加と課題レポートの提出状況で出欠を登録する。各回のレポートと最終試験で評価するという基準は対面授業の場合と同じ。（レポート50%、最終試験50%）